

千葉県建築文化賞

第21回表彰作品集



2014年

主催：千葉県 共催：一般社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

平成26年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する県民の意識の高揚と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第21回目となる今年度は、52点の応募をいただき、千葉県建築文化賞検討会議による検討結果を踏まえ、最優秀賞1点、優秀賞3点及び入賞5点の合計9点を選定いたしました。

受賞作品は、安全や快適性、景観、環境に配慮するなど、本県の建築文化の向上につながるもので、千葉の魅力を高め、地域の活性化に貢献する素晴らしい作品ばかりです。これらの建築物が、地域で親しまれ、より良いまちづくりの推進に寄与していくことを心から期待しています。

今後とも県では、皆様と共に、次世代を担う子どもたちが「千葉で生まれて、住んで、働いて良かった」と誇りに思えるような魅力あふれる「日本一の光り輝く千葉県」を築いていけるよう、全力で取り組んでまいりますので、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、受賞者並びに応募いただいた皆様の今後ますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさついたします。

平成27年3月

目 次

千葉県建築文化賞について	1	千葉大学みのはな同窓会館	8
第21回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	篠原久雄邸	8
市原湖畔美術館	3	牧の原団地 1-21号棟	9
恋する豚研究所	4	受賞作品の位置	9
成田高等学校1号館	5	千葉県建築文化賞の実績	10
House in TSUTSUMINO	6	(応募点数・受賞作品数) 一覧	
沢井製薬株式会社関東工場	7	選考の基準	10
学校法人渋谷教育学園幕張中学・幕張高等学校 30周年記念棟	7		

第21回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募52点から9点授賞

(選考経過)

千葉県建築文化賞検討会議委員長 北原 理雄

第21回千葉県建築文化賞は平成26年7月の検討会議で募集要領を定め、7月下旬から9月下旬まで応募を受け付け、総数52点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに投票を行い、一般建築物7点、住宅5点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募している場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、最優秀賞1点、優秀賞3点、入賞5点を表彰候補作品として決定した。

昨年度までは賞の区分を「建築文化賞」「建築文化奨励賞」の2区分としていたが、今回から「最優秀賞」「優秀賞」「入賞」の3区分に改めた。従来の「奨励賞」は比較的小規模な佳作の表彰により、若手や中小の設計者・施工者の努力を支援することを目指していた。設置から18年を経て所期の目的を果たしたため、選考の基準を一本化した。新たに設けられた「優秀賞」は、デザイン性に優れ、まちなみや周辺環境との調和や、安全で快適な建築空間の創出に寄与した先導的な建築物を表彰するものである。「最優秀賞」は、そのうちの特に優れた建築物に与えられる。また「入賞」は「優秀賞」に準じ、意欲的な可能性を示した建築物を表彰するものである。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)		
				最優秀賞	優秀賞	入賞
一般建築物		32	7	1	2	3
住宅		20	5	0	1	2
合計		52	12	1	3	5

(総評)

一般建築物の部

一般建築物の部への応募は32点で、学校関連施設に佳作が多かったが、それ以外にも公共施設、福祉施設、生産施設など、多彩な作品が寄せられた。

最優秀賞の「市原湖畔美術館」は、1995年に建てられた展示施設のリノベーションである。コンクリートの構造体を残し、スチール折板の壁を挿入して展示室やラウンジ、ホールをつくることにより、旧施設の特徴であった回遊性を活かしつつ、湖と緑の周辺環境と一体になった体験型の美術館を実現している。特徴的な空間を活用したアート作品の展示企画、市民に開かれた活発なワークショップなど、ソフト面の充実も高く評価された。

優秀賞の「恋する豚研究所」は、赤い3つの屋根の下に豚肉加工工場、レストラン、オフィス、広場をまとめた障害者の継続就業支援施設である。周囲の杉林と共存し、2階のレストラン・広場からは緑の眺望を楽しむことができる。福祉と地域の養豚業・農業をつなぐプログラムも可能性を感じさせる。

「成田高等学校1号館」は、山を背負う制約された敷地のなかで、分散していた旧校舎をひとつにまとめた5階建ての校舎である。中央の吹抜け空間が複数の機能を結びつけ、採光と換気の役割を果たしている。水平性を強調したファサードが旧校舎の記憶を継承し、緑豊かな周辺環境と調和している。

入賞の「沢井製薬株式会社関東工場」は、明るく親しみやすい建物と開放的な敷地計画が一体になり、地域に開かれた工場になっている。「学校法人渋谷教育学園幕張中学・幕張高等学校 30周年記念棟」は、図書館とコンピュータ・音楽・アートなどの教室を三角形断面の建物に収め、自主性を重んじる学習の場と環境への配慮を実現している。「千葉大学あひのほな同窓会館」は、水平性を強調した端正なデザインが歴史の積層を表現し、世代を超えたシンボリックな交流の場を生みだしている。

住宅の部

住宅の部の応募は20点であり、今回も県内各地から規模やライフスタイルの異なる作品が寄せられた。

優秀賞の「House in TSUTSUMINO」は、江戸川に面した敷地に建つ、小さなカフェを併設した住宅である。川への眺望を活かすため、屋上を展望用のスロープテラスとしている。複雑な傾斜テラスとレベル差を組み合わせた空間は変化に富み、施工を含めて完成度が高い。一般的な生活の場とは言えないが、建築主の希望に応えた良質な作品である。

入賞の「篠原久雄邸」は、構造材から仕上げ材までサンプスギを使用した住宅であり、エアコンに頼らない生活を含めて、地域循環型の住まいへの意欲的な取り組みである。「牧の原団地 1-21号棟」は、への字形平面住棟の耐震改修であり、屈折部に位置する住戸を減築する手法は同種の改修のモデルになり得る可能性を持っている。